

旭労災病院ニュース

病院情報誌 第 79 号 平成 24 年 6 月 1 日発行

発行所：旭労災病院

〒488-8885

尾張旭市平子町北61番地

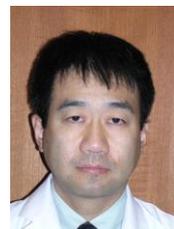
TEL 0561-54-3131

FAX 0561-52-2426

<http://www.asahih.rofuku.go.jp/>

潰瘍性大腸炎手術症例を経験して

外科部長 高野 学



潰瘍性大腸炎の患者数は欧米に比べると本邦では少ないとされていますが、近年増加してきており罹患患者数は約 10 万人とされています。主として大腸の粘膜を侵し、しばしばびらんや潰瘍を形成する原因不明のびまん性非特異的炎症と定義されています。現在まで病因が解明されておらず治療は薬物治療で寛解を維持することが原則です。

手術が必要となるのは全身状態が急激に増悪した場合、大腸穿孔や中毒性巨大結腸症や大量出血を生じた場合、大腸癌の合併を生じた場合、内科的治療に抵抗性の場合などです。大腸全体に病巣を生じるため大腸全摘が必要となります。回腸での恒久的人工肛門を避けるために回腸と肛門を吻合する必要があるのですがその吻合方法が 2 つあります。

回腸囊肛門吻合 (ileal pouch anal anastomosis; 以下 IPAA) は肛門管内の上皮を同時に切除するのですが手術の困難さから敬遠され、機械吻合を用いた回腸囊肛門管吻合術 (ileal pouch analcanal anastomosis; 以下 IACA) を第一選択としている施設も多く存在します。ただしこの手術手技では肛門管が残存します。

IACA の利点は手術の簡便さもさることながら、IPAA で一般的に行われている一時的回腸人工肛門造設が不要で一回の手術で治療が終了すること、また肛門管機能が温存されるため手術後の排便機能特に便の漏れを生じにくい点で優れているとされます。一方少ないながらも肛門管円柱上皮が残存するため疾患の根治性が劣ることや癌化のリスクを伴うことが欠点とされます。

今回内科的治療に抵抗性の潰瘍性大腸炎手術例を経験しました。患者さまは 50 代男性で平成 19 年から血便があり潰瘍性大腸炎と診断し治療を開始されておりましたが徐々に内服治療に抵抗性となり、平成 23 年当院紹介されました。その後、顆粒球除去療法やステロイド投与を行いました。下行結腸の狭窄を生じたことから本年 4 月 IPAA を施行しました。潰瘍性大腸炎においても手術の必要な場合があることを御記憶いただければ幸いです。

内視鏡検査、治療施行時の 抗血栓薬の中止基準について



消化器科主任部長 小笹 貴士

現在、脳梗塞や心筋梗塞などの血管閉塞性疾患に対して抗凝固療法が施行されており、各疾患のコントロールが良好になってきております。その一方で、内視鏡検査、治療施行時に、出血や止血困難といった問題が生じています。

先日、消化器内視鏡学会より消化器内視鏡ハンドブックなるものが郵送されてきました。さっそく抗血栓療法薬の中止基準の項をみてみましたが、現在ガイドラインを作成中とのことで、現在も以下のような消化器内視鏡ガイドライン第3版(2006年)に基づいた記載となっております。

・主な抗血栓薬の休薬期間

	一般名	主な商品名	休薬期間	半減期
抗 血 小 板 薬	アスピリン	バファリン バイアスピリン	※3日	バイアスピリンとして44分 サリチル酸として2~5時間
	塩酸チクロピジン	パナルジン	※5日	1.6時間
	アスピリン +塩酸チクロピジン	バイアスピリン +パナルジン	※7日	
	シロスタゾール	プレタール	2日	18時間
	クロピドグレル	プラビックス	5-14日	6.9時間
	イコサペント酸エチル	エパデール	7日	約10時間
	ベラプロストナトリウム	ドルナー、 プロサイリン	1日	1.1時間
	塩酸サルボグレラート	アンプラーグ	1日	45分
抗 凝 固 薬	ワルファリン	ワーファリン	※3-4日	60~133時間
	アルガトロバン	ノバスタン	5日	30分
	ダナパロイドナトリウム	オルガラン	5日	17~28時間
	ダビガトラン	プラザキサ	2日	13.4時間
	ジピリダモール	ペルサンチン	2日	25分
	リマプロストアルファデクス	オパールモン	1日	27分
	オザグレレルナトリウム	カタクロット	5日	47分

※は、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡ガイドライン第3版による休薬期間

その他は、埼玉医科大学病院での休薬期間

当院においても上記を参考に、患者の基礎疾患や侵襲の度合いを考慮に入れ薬剤の中止を行っております。
内視鏡検査ご依頼時、上記内服薬の有無、また休薬の可否につきお教えいただければ幸いです。

追伸

今まで下部消化管内視鏡検査において、ポリープ切除時は基本的に2泊3日で行って行っておりましたが、患者、及び先生方のニーズにお答えすべく、徐々にではありますが、内視鏡検査時にポリープを認めればその場で切除していくことも行っていくこととなりました。検査ご依頼時その旨お知らせいただければできる限り対応させていただきます。

何卒今後ともよろしくお願い申し上げます。